

報告事項1 かみたん号の運行状況について

概要

かみたん号の運行にあたり、新型コロナウイルス感染拡大を防ぐための対策を講じるとともに、乗客にも対策を呼びかけている。利用者数は緊急事態宣言前後に落ち込み、現在も回復しきっていない状況である。

他方、お断り件数について利用者数の増減とお断り件数が比例することが分かった。今後新型コロナウイルスの脅威が収束し、利用者数の回復及び高齢化等による利用者数増が見られた際に、お断り状況の改善がなされていなければ、自家用車を主たる交通手段としている層が、公共交通へ適切に移行することが妨げられかねない。

また、迎えや到着時間の指定、近隣市町との連携、スマホやパソコンでの予約等の改善が求められていることがアンケート結果から分かったため、これらの対応及びお断り状況の改善のために予約配車システムを導入することを今後検討するとともに、既存のタクシー業との役割分担を模索していくこととする。

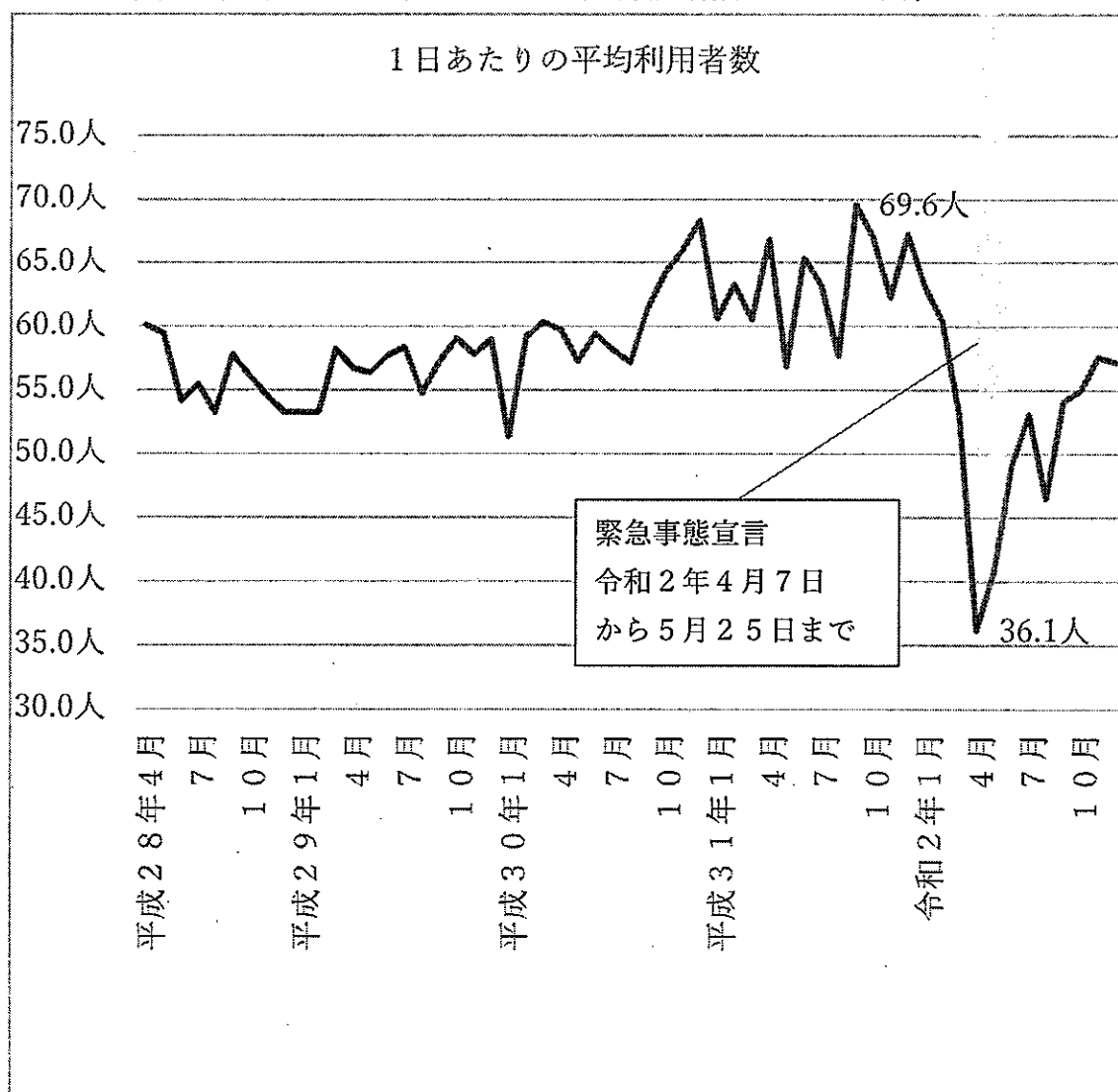
1. 新型コロナ感染対策

デマンド交通かみたん号の運行において換気、消毒、乗務員のマスク着用等取り組みとともに、乗客にも国の示す「新しい生活様式の実践」を呼びかけている。

(別紙参照)

2. 新型コロナウイルス感染拡大による利用の減少

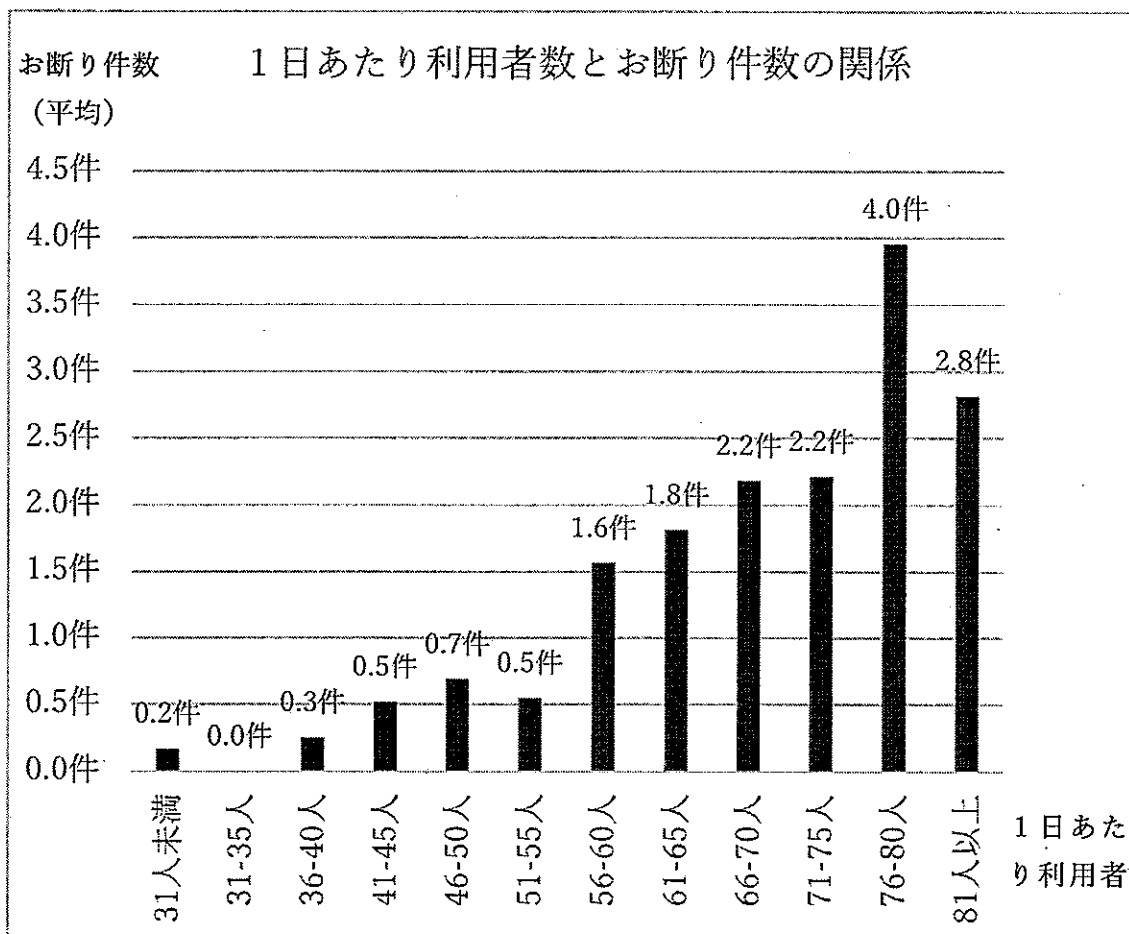
平成28年4月からの本格運行以降、利用者は微増傾向がみられており、令和元年9月には1日平均利用人数が最多の69.6人に至ったが、令和2年に入ってから新型コロナウイルスの感染への警戒や外出自粛から利用が控えられ、令和2年4月には最低の36.1人まで下がった。回復がみられているものの現在も前年度水準までの回復には至っていない。(平成31年度の1日平均利用者が62.7人であるのに対し、令和2年7月から12月までの1日平均利用者数は53.9人)



3. お断り状況

利用者の増減に伴いお断り件数も増減する。1日あたり利用者とお断り件数の平均との関係を見ると、1日あたり利用者が66人以上となるとお断りの平均が2件を超し、76人以上となると2.5件を超すことが分かった。

高齢化に伴い利用者は増加していくと考えられるので、お断り件数を減らしていく取組みが必要である。



4. 改善の要望等

令和2年3月実施のアンケート（次項以降参照）から、公共交通をよりよくするためには「かみたん号の迎えや到着時間を指定できるようにする」「近隣市町と連携する」「スマホやパソコンで予約できるようにする」の順で回答が多かった。

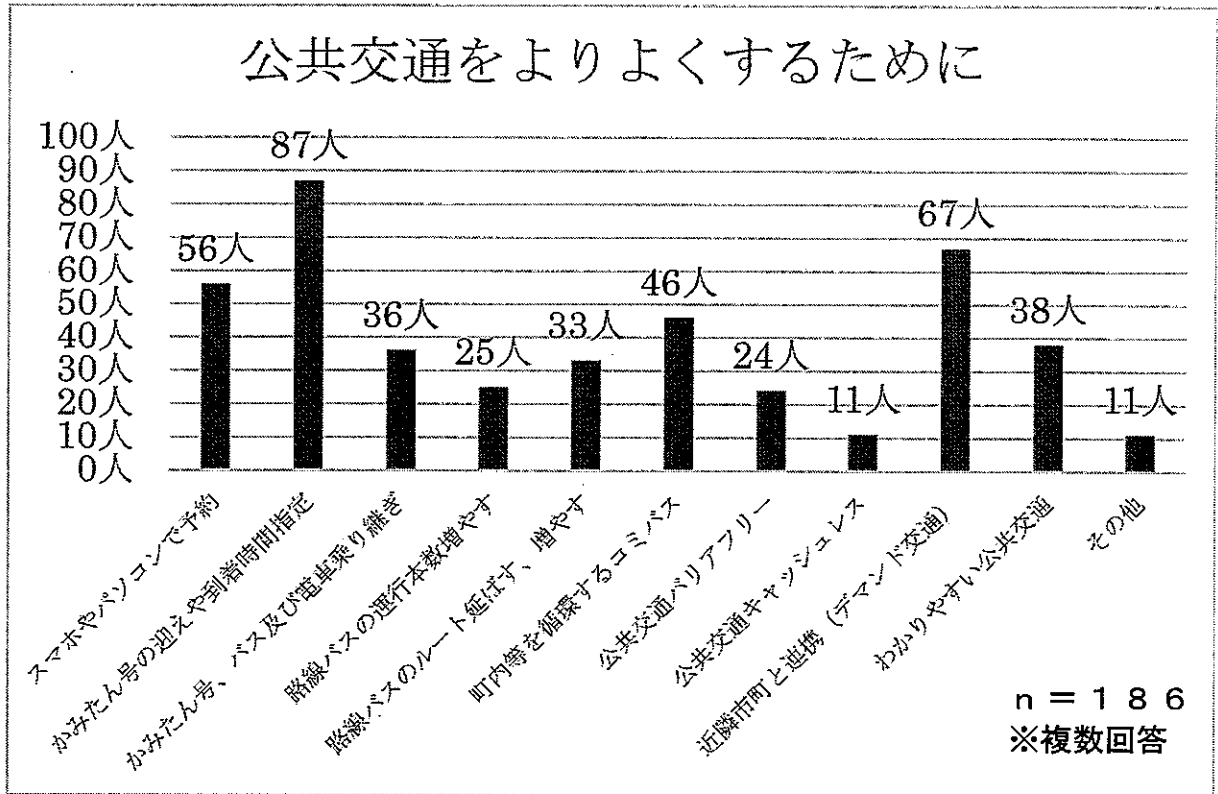
また、自由回答でも将来の免許返納の移動手段としてデマンド交通の利便性の向上を求める回答がみられた。

問7 公共交通をよりよくするために必要なこと

問7 今後、「かみたん号」を含めた上三川町の公共交通をよりよくするためには何が必要だと思いますか。（最大3つまで○）

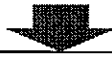


上三川町の公共交通環境をよりよくするためには、「かみたん号の迎えや到着時刻を指定」する「近隣市町との連携」、「スマホやパソコンでの予約」が多かった。



問 8 自由意見

問 8 デマンド交通についてご意見、ご要望がございましたらご自由にお書きください。



自由記述では、高齢者の自動車運転事故の増加の影響もあり、免許返納後の移動手段として利用したいとの意見が多くあった。一方で、運行内容については、土日祝日の運行、時間延長、運行区域の拡大の他、スマホアプリやITを活用し利便性の向上や運行の効率化を求める意見があった。

【主な意見】

(1) 運行日について

- ・土・日・祝日にも運行されると利用しやすい。

(2) 運行時間帯について

- ・早朝の利用を可能にしてほしい。
- ・午後5時の便が利用できて助かっています。

(3) 運賃について

- ・自治医大は直行便が出ているようですが、獨協の場合は石橋駅乗り換えのようなので直行にはならないのですか、色々な面で子供には手厚いが老人の方にも運賃が200円から300円の値上げは少し厳しいのでは？

(4) 運行区域について

- ・獨協医大病院に行ける様に下野市、壬生町と連携して行う。

(5) その他

- ・将来 自身の免許返納、親の免許返納の際、不安なくできるようデマンド交通を便利にしてほしいです。
- ・ITを活用し運行効率を上げる。
- ・当日の運行状況を確認できるサービスが欲しい。当日利用できる交通手段が欲しい。
- ・今回「子供も利用できる」ということを初めて知りました。お年寄りのみと思っていたのでとても良いと思いましたし、ぜひ利用したいと思いました。

報告事項2 ゆうがおバスの運行状況

概要

ゆうがおバスについては、かみたん号と同様に新型コロナウイルス感染拡大により利用者数等が低下している。

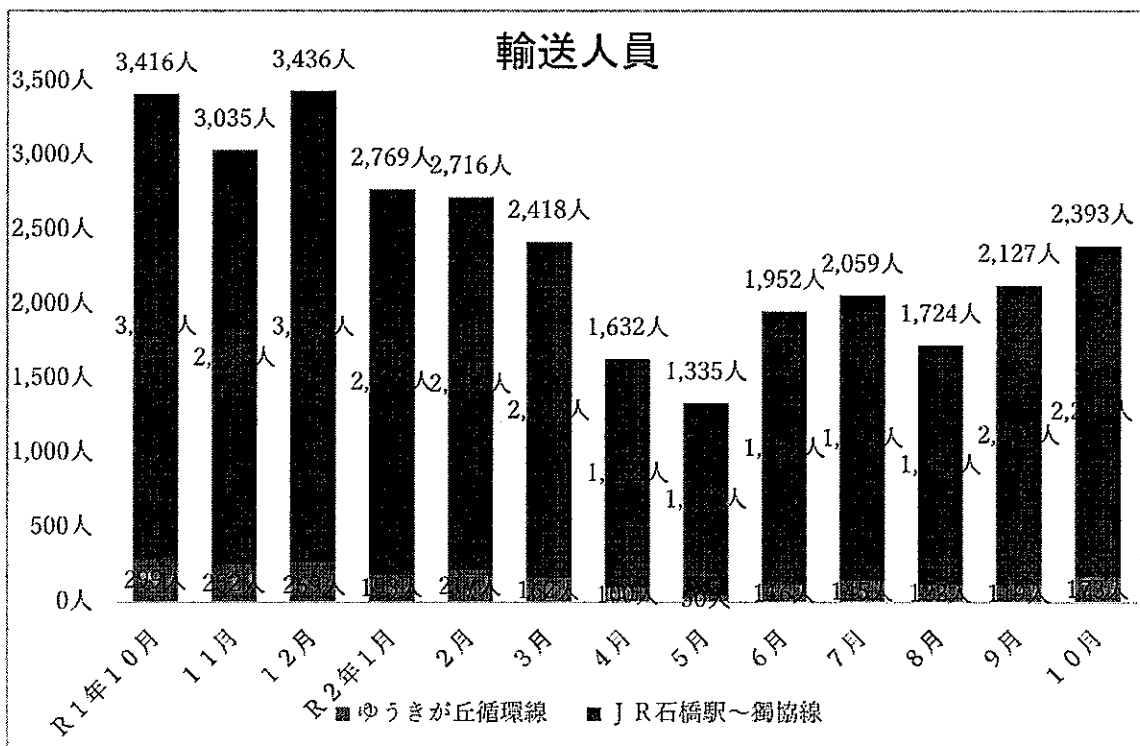
石橋獨協線においては、国県補助基準の水準がコロナウイルス感染拡大後下回ってしまっている。

ゆうきが丘循環線については、令和2年10月からルート変更を行ったことで、各指標において増加がみられた。特に利用者数においては1.5倍ほどの利用者増がみられた。しかし、依然として国県補助基準を大きく下回る利用水準である状況である。

石橋獨協線の利用者増に資するためにかみたん号との乗り換えの利便性を増すとともに、ゆうきが丘循環線については、アンケートの結果を踏まえ、通勤通学への利用に特化したダイヤ変更を検討していく。

1. 輸送人員

令和2年に入ってから新型コロナウイルスの感染への警戒や外出自粛から、利用が控えられ、利用者数が落ち込んだものの現在は回復基調にある。ゆうきが丘循環線についても令和2年10月にルート変更を行った結果、9月は119人だったところ10月は173人と1.5倍近い利用者増がみられた。



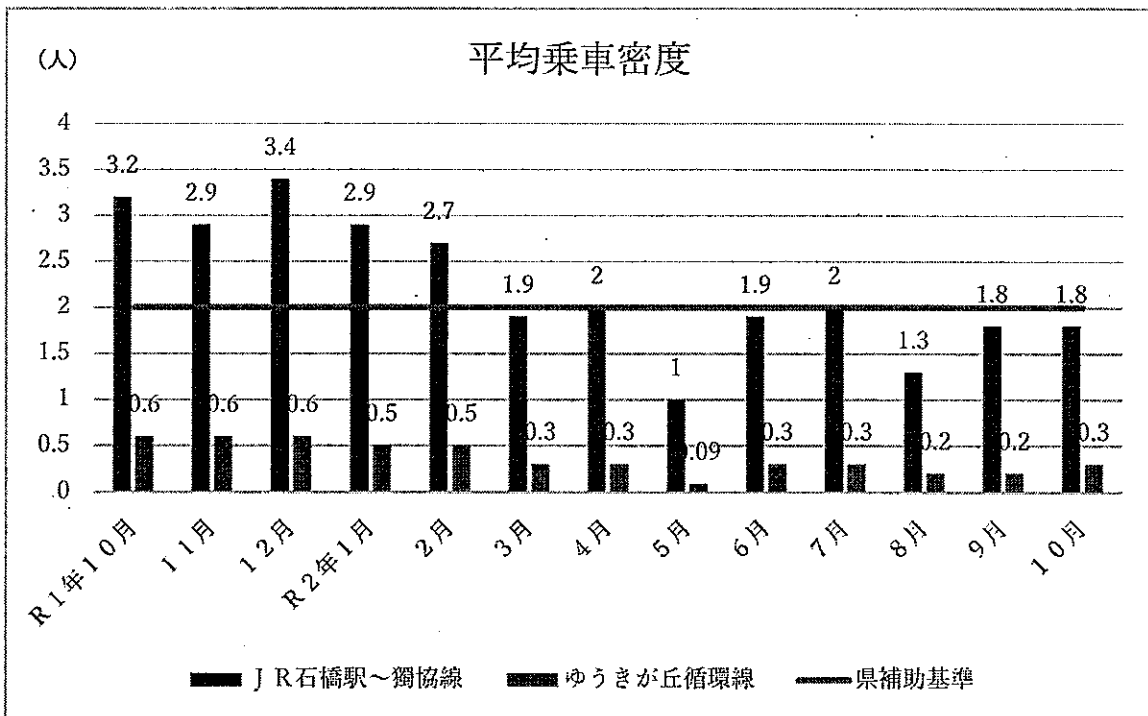
2. 輸送量及び平均乗車密度

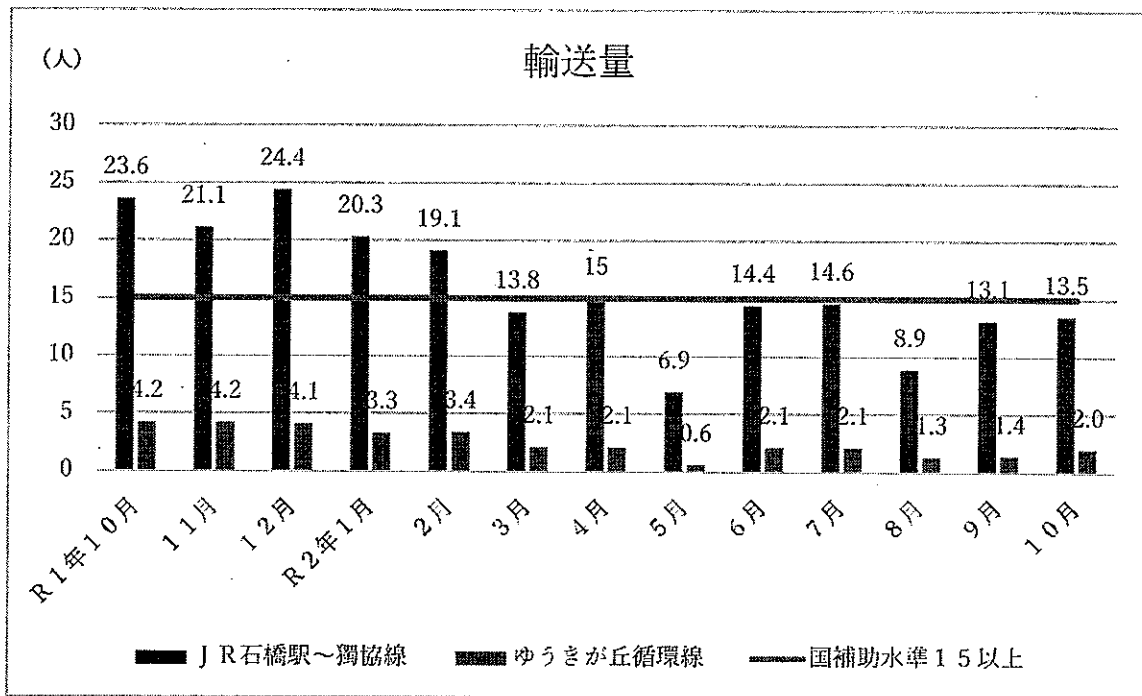
本格運行を目指すうえで重要な要素となる国県補助について、県補助の基準となる平均乗車密度（※1）については、2以上であることが定められているが、新型コロナウイルスの感染拡大がみられて以降、JR石橋駅～獨協線については2を下回る月が見られるようになった。ゆうきが丘循環線については、ルート変更により若干の持ち直しがみられたものの基準に遠く及ばない状況である。

国補助の基準となる輸送量（※2）については、15以上であることが定められているが、県補助と同様の状況である。

※1 平均乗車密度は、バスの起点から終点まで平均して何人乗車しているかを示す数値であり、運送収入、走行距離、平均賃率等から算出する。利用者が増え運送収入が増すと平均乗車密度は増加する。

※2 輸送量とは、平均乗車密度に運行回数を乗じた数値であり、平均乗車密度と同様に利用者が増え運送収入が増すと輸送量は増加する。





3. アンケートの結果

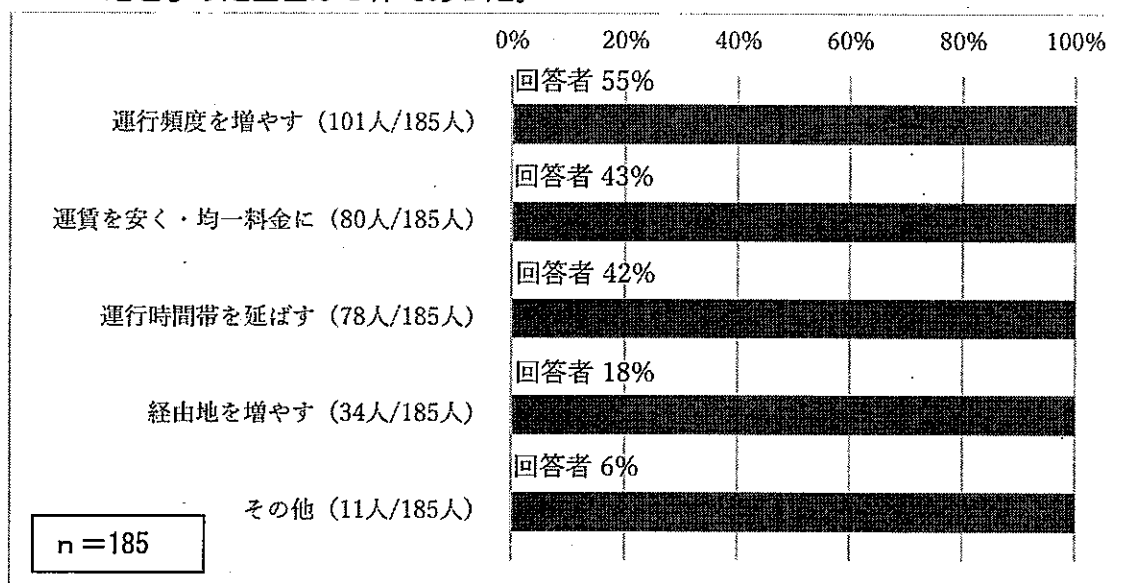
令和2年1月から2月にかけて実施したアンケート結果（次項以降参照）について、改善の要望としてもっとも多かった運行頻度（本数）を増やすことについて、その回答内容を精査したところ、「1時間に1便から2便程度走らせてほしい」等の全時間帯に係る運行頻度増の要望が多かったものの、「6時～10時、18時～23時の間に1時間に1便程度走らせてほしい」や「7～8時と17時～18時に1時間に2便程度走らせてほしい」など具体的に朝と夜間の運行を充実する意見が散見された。

また、運行時間帯を延ばすことへの要望も回答者の42%と相当数みられることから、朝と夜間の運行を充実することが、ゆうきが丘循環線の改善にあたり効果的と考えられる。

(3) どのような改善を望みますか

運行頻度（本数）を増やす、運賃を安く、時間帯を延ばす等の改善を希望する回答が多かった。

経由地を増やすについては、34人のうちインターパークやスーパーマーケット等の商業施設を挙げた回答が20件、いきいきプラザや役場等の中心市街地を挙げた回答が6件であった。



—今後の取組み—

—ゆうきが丘循環線については、令和2年10月からルートの変更を行う。旧国道四—
—号線を走るルートから、文教通りを走るルートに変更し、医療機関への受診や、ス—
—パーマーケットの買い物の利用による乗客の増を見込む。—

協議事項1 かみたん号の区間運行乗降場所の追加

1. 内容

かみたん号が町外の乗降場所としている区間運行先は9か所で、うち1つは石橋駅の東口であるが、次のとおり石橋駅西口を追加で乗降場所とする。

	区間運行乗降場所	料金
(既存)	うつのみや病院	大人450円 小人150円
	石橋総合病院	大人450円 小人150円
	自治医科大学付属病院	大人450円 小人150円
	福田屋百貨店（FKD インターパーク店）	大人450円 小人150円
	スーパーマーケットかましん石橋店	大人450円 小人150円
	スーパーマーケットかましん自治医大店	大人450円 小人150円
	J R雀宮駅東口	大人450円 小人150円
	J R石橋駅東口	大人300円 小人150円
	J R自治医大駅東口	大人450円 小人150円
(新規)	石橋駅西口	大人300円 小人150円

2. 理由

現在、石橋駅については東口を乗降場所としているところであるが、路線バスの停留所は反対側の西口にある。

町民がかみたん号とゆうがおバスを利用し、獨協医大やおもちゃのまち駅への移動するにあたり、かみたん号で自宅から石橋駅東口に移動し、石橋駅東口から石橋駅西口バス停に徒歩で移動し、ゆうがおバスに乗り換えることとなる。（次項参考）

石橋駅東口から西口バス停までの道のりは200m弱で徒歩では4分弱の時間を要する。高齢者によっては長い道のりで所要時間も4分以上かかることも考えられ、乗換えに負担が大きい。

3. ねらい

バス停を有する西口に直接アクセスできるようにすることでバスとの乗り換えの利便性を高めたい。

4. 料金

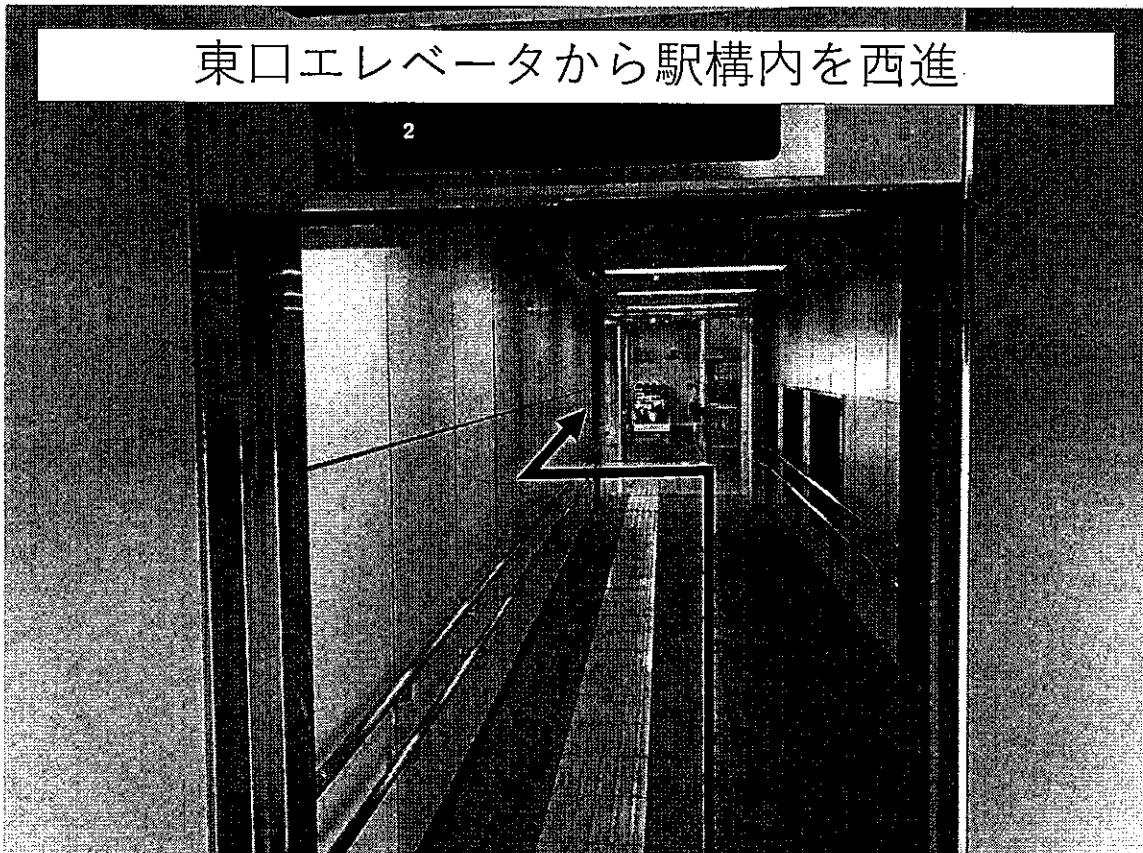
金額については石橋駅東口の料金を鑑み、石橋駅西口も大人300円 小人150円とする。

かみたん号停留所から東口エレベータまで



1

東口エレベータから駅構内を西進



2

西口出口を出て右折



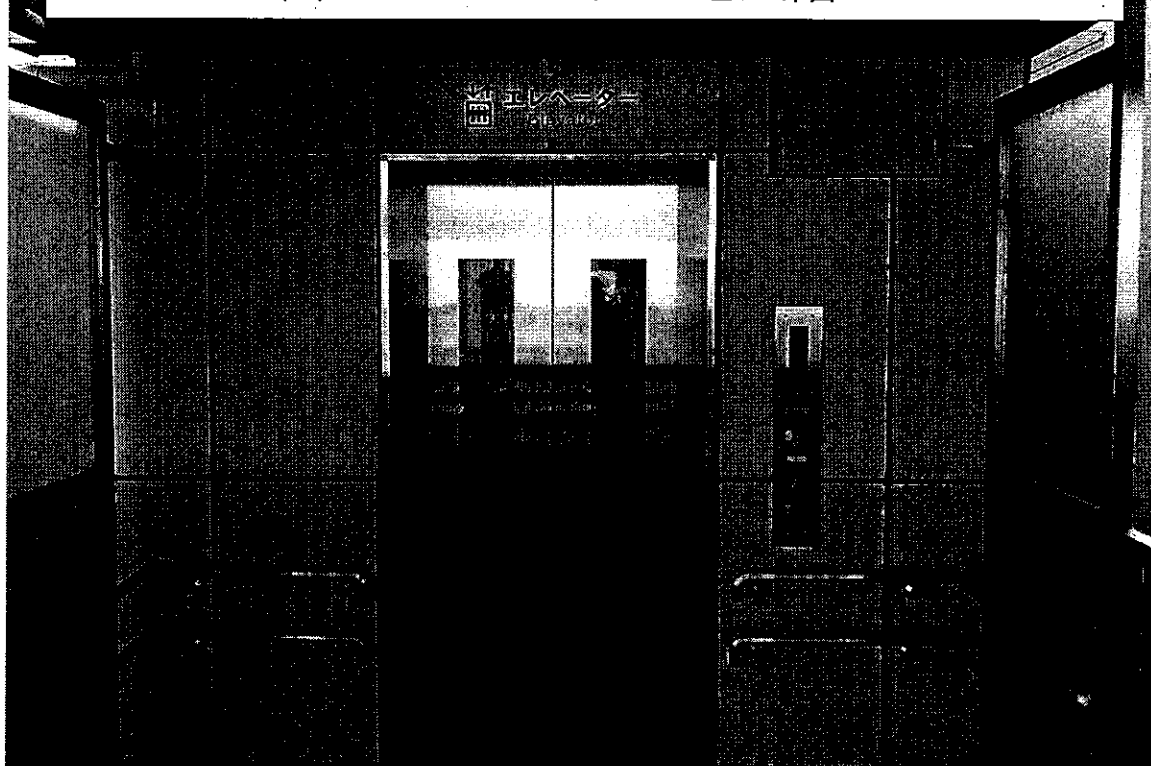
3

西口出口から西口エレベータへ



4

西口エレベータで地上階へ



5

西口エレベータからバス停まで



ゆうがおバス
独協医大行き
バス停

6

協議事項2 地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について

1. 内容

関東運輸局長から地域公共交通確保維持改善事業にかかる事業評価結果（次項参照）をうけ、令和2年度自己評価を別紙のとおりとする。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和2年2月28日
関東運輸局

評価対象事業名: 地域内ライダーシステム確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点		
上三川町地域公共交通協議会	関東交通株式会社	上三川町デマンド交通	新規利用者の獲得について、アンケート結果から利用方法の理解や登録から利用までの流れの理解がハードルとなっており、周知をすすめることが効果的ではないかと検証し、デマンド交通かみたん号を紹介する動画を作成した。予約から乗車、支払い、降車までの一連の流れを映像により疑似体験すること、初めての登録利用に至るまでの抵抗感を軽減し、利用の促進を図った。 ターゲットを明確にした利用促進施策については、午後5時頃の試行運行を開始し、子どもの登通いの移動手段としての利用を促進した。 交流人口の取込みとして敬老会等イベントで出張窓口を設け、お友達同士でのお出かけやお友達のうちへの足としても使えることをPRした。	事業が計画に位置づけられ、適切に実施されている。 事業が計画に位置づけられ、適切に実施されている。 事業が計画に位置づけられ、適切に実施されている。 事業が計画に位置づけられ、適切に実施されている。	事業が計画に位置づけられ、適切に実施されている。 事業が計画に位置づけられ、適切に実施されている。 事業が計画に位置づけられ、適切に実施されている。 事業が計画に位置づけられ、適切に実施されている。	⑤目標・効果達成状況 事業が計画に位置づけられ、適切に実施されている。 事業が計画に位置づけられ、適切に実施されている。 事業が計画に位置づけられ、適切に実施されている。 事業が計画に位置づけられ、適切に実施されている。	⑥事業の今後の改善点 よりたくさんの方の乗合いを発生させ効率よく運行するため、に、「寄り道しながら目的地へ送り届ける交通機関である」ことを改めてPRする。 ・午前の時間帯が混雑し予約のお断りが発生している反面、午後の利用が少なく運行効率が悪くなっているため、午後の利用に誘導できようかなを啓発を行う。 ・コミュニケーションのイベント等各地域における出張相談・申請窓口を設けるとともに、デマンド交通紹介動画を制作した。	事業が計画に位置づけられ、適切に実施されている。 事業が計画に位置づけられ、適切に実施されている。 事業が計画に位置づけられ、適切に実施されている。 事業が計画に位置づけられ、適切に実施されている。

前回事業評価結果
(関東運輸局より)

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

令和3年1月28日

協議会名： 上三川町地域公共交通会議

評価対象事業名： 地域内ファイターシステム確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）
<p>関東交通株式会社</p>	<p>上三川町デマンド交通</p>	<p>・他自治体との連携した事業への取組み、地域全体の公共交通のあり方の検証 ・近接する下野市及び壬生町との共同で行っているゆうがおバスの実証運行をきっかけにデマンド交通の相互利用についても検討を進めている。 ・事業者が保有するデータの入手・活用 ・運行実績データと予約お断り実態の検証により1日76件以上の移動が発生するとお断り件数が2.5人を超す実態が分かったため、解消に向けて取り組んでいきたい。 ・取組みの結果についての追跡調査、行動変容・ニーズの確認 ・紹介動画、広報、新聞記事及び車内掲示等で午後の利用を呼び掛けているが、新型コロナウイルスの感染拡大により利用状況が大きく変化し効果を測定できなかった。 ・商業施設等との連携を図りつつ、現在の事業の効果を検証しながら乗ってもらいきっかけづくり ・町商工会及び町内大型ホームセンターの協力により、商業事業者負担での割引券等の発行が始まり、商業事業者等との連携により町の公共交通ネットワークを促進する仕組みがつけられた。</p>	<p>A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された</p>	<p>B 事業が計画に位置付けられた目標を達成できていない点があった 【未達成項目】 計画：1日あたり75人分の移動手段を確保する。 ↓ 実績：1日あたり54.3人</p>	<p>これまでの取組やアンケート等での要望を踏まえ自動予約配車システムを導入し必要な利便性の向上を図る 主な狙い 1 空き時間や空席の活用等による効率化によるお断り状況の改善 2 大まかな送迎時間の指定を可能にすることで、バス及び鉄道の接続を強化する 3 電話予約に加えマホ等IT端末での予約を可能にする 4 効率的な乗合いをつくる結果、一人当たり乗車時間の増が見込まれるが、デマンド水準のサービスレベルとして理解を広げ、タクシー業との望ましい差別化を図っていく 路線バスとの接続強化 ・最寄り鉄道駅である石橋駅東口を区間運行先としているが、バス停のある西口も乗降場所とすることで乗換えをしやすいとする。</p>

今回も準備

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和3年1月28日

	協議会名： 上三川町地域公共交通会議
評価対象事業名：	地域内ライダーシステム確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>マイカーの普及等により公共交通の利用者が減少している一方で、高齢者等の中には、通院や買い物などの移動手段として公共交通を必要としている町民も存在する。</p> <p>今後、高齢者社会の進展により、公共交通に対する要望も増加、多様化することが想定され、公共交通の充実を求め、町民ニーズへ対応するための取組みが求められている。</p> <p>このような中、利用者が低迷していた定時定路線の町の巡回バスを平成25年2月末で終了し、3月からは、より町の実態に即した長期的で持続可能な地域公共交通としてデマンド交通の運行を実施している。</p>

令和2年度 上三川町地域公共交通会議 (栃木県上三川町) (地域内ライダーシステム確保維持事業)

地域の公共交通等の現況

本町は、下野市と隣接する行政界西側にJR石橋駅が近接する。また、民間会社の路線バスが5路線存在する。高齢化率は県下で最も低い(22.18%)。栃木県令和元(2019)年度版ふるさとウォッチング)、急速な少子高齢化の進展や人口の減少、マイカーの利用を前提とした生活スタイルの定着等により、公共交通の利用は減少傾向にあり、その維持継続が困難な状況が生じている。

交通計画の目指す概要 / 地域公共交通に関する施策・取組の概要

- ・ 「生活の足」として利用しやすい公共交通網を構築する。
- ・ 観光振興と一体となった観光交通の充実を目指す。
- ・ だれでも安心して利用できる公共交通の利用促進を図る。

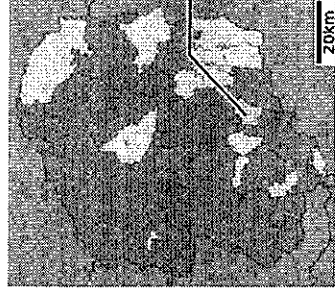
交通施策として実施した事業の全体像の概要

- ・ 地域公共交通を確保維持する取り組みとして、町内に終点がある路線バスを「地域間幹線系統」として、これに接続させる形で事前予約型・区間運行のデマンド交通を運行している。
- ・ 乗合バス路線の維持確保を図るため、国や県と協調し補助金を交付している。
- ・ 新たな路線バスとして、本町から下野市、壬生町を東西に横断する「ゆうがおバス」の実証運行を行っている。

補助対象事業の概要

デマンド交通かみたん号の運行
 実証運行期間：平成25年3月1日～平成28年3月31日
 本格運行：平成28年4月1日～

【デマンド交通「かみたん号」】←補助事業
 事業者名：関東交通株式会社
 運行区域：上三川町全域及び指定町外9施設
 運行日：月曜～金曜(日曜、土曜、祝日、年末年始運休)
 運行時間帯：8時00分～18時00分
 運行本数：10便/日
 運行車両：3台
 運賃：大人(中学生以上)：町内300円、町外450円
 小学生：一律150円 未就学児：無料



栃木県 上三川町

面積	54.39km ²
人口 (R2.1.1時点)	31,285人
15歳未満	4,102人
65歳以上	7,413人
高齢化率	23.7%
世帯数	12,126世帯

交通計画の策定年月日

平成30年8月30日

協議会開催状況

- 協議会の開催状況 2回開催
 - ・第1回(7月27日)
デマンド交通利用状況
確保維持計画等
 - ・第2回(1月28日)
事業評価について等

前回の事業評価結果の反映状況

- ・他自治体との連携した事業への取組み、地域全体の公共交通のあり方の検証
近接する下野市及び壬生町との共同で行っているゆうがおバスの実証運行をきっかけにデマンド交通の相互利用についても検討を進めている。
- ・事業者が保有するデータの入手・活用
運行実績データと予約お断り実態の検証により1日76件以上の移動が発生するとお断り件数が2.5人を超す実態が分かったため、解消に向けて取り組んでいきたい。
- ・取組みの結果についての追跡調査、行動変容・ニーズの確認
紹介動画、広報、新聞記事及び車内掲示等で午後の利用を呼び掛けているが、新型コロナウイルスの感染拡大により利用状況が大きく変化し効果を測定できなかつた。
- ・商業施設等との連携を図りつつ、現在の事業の効果を検証しながら乗ってもらえかけづくり
町商工会及び町内大型ホームセンターの協力により、商業事業者負担での割引券等の発行が始まり、商業事業者等との連携により町の公共交通ネットワークを促進する仕組みがつけられた。

定量的な目標・効果

【評価指標・目標値】

- 1日あたり75人分の移動手段を確保する。
- 【当該指標・目標値を設定した理由】
- ・高齢者等の移動手段の確保や、町内の地域間での公共交通サービスの平準化による公共交通空白地の解消を図るため導入したデマンド交通「かみたん号」の利用者数を指標とすることにより、生活の足として利用しやすい公共交通の構築の指標として把握ができるため。

【効果】

利用者の増加と運賃収入の増加をもって“安全・安心”に往来できる公共交通ネットワークの持続可能性を高める。

目標・効果の達成状況

【指標】実績:54.3人/日

【目標を達成できなかった要因(分析)】

- ・ 昨年63.8人/日から大きく9.5人/日の減少となり目標は達成しなかつた。
- ・ 新型コロナウイルスの感染拡大に伴う外出自粛による影響が大きいと考えられる。
- ・ 新型コロナウイルスの感染の影響が少ないと考えられる令和元年10月～翌年1月までの4月の1日あたり利用者は65.0人/日であり、前年同期が64.8人/日であったため、若干の利用拡大は見られていたと考えられる。

【効果】

利用者15,369人(令和元年度)→13,090人(令和2年度)

網計画 中間目標(2021) 15,200人

アピールポイント

「デマンド交通かみたん号がお得に利用できます」として、割引券発行事業を開始した。
現在は2事業者の協力をいただいている。

- ・町商工会のポイントカードをかみたん号の回数券に引替える
- ・町内大型ホームセンターが購入額2,000円に
応じて150円の割引券(ホームセンターとの往復のみ利用可能)を発行する。

割引する店舗に費用を負担いただくこととなるが、店舗がお客様の送迎の足を確保する手段として活用できれば、町民、店舗、町3者の利益になるため、今後も協力を募っていききたい。

[http://www.town.kaminokawa.lg.jp/0074/info-](http://www.town.kaminokawa.lg.jp/0074/info-0000001808-0.html)

[0000001808-0.html](http://www.town.kaminokawa.lg.jp/0074/info-0000001808-0.html)

[http://www.town.kaminokawa.lg.jp/0074/info-](http://www.town.kaminokawa.lg.jp/0074/info-0000001941-0.html)

[0000001941-0.html](http://www.town.kaminokawa.lg.jp/0074/info-0000001941-0.html)

今後の改善点

これまでの取組やアンケート等での要望を踏まえ自動予約配車システムを導入し必要な利便性の向上を図る

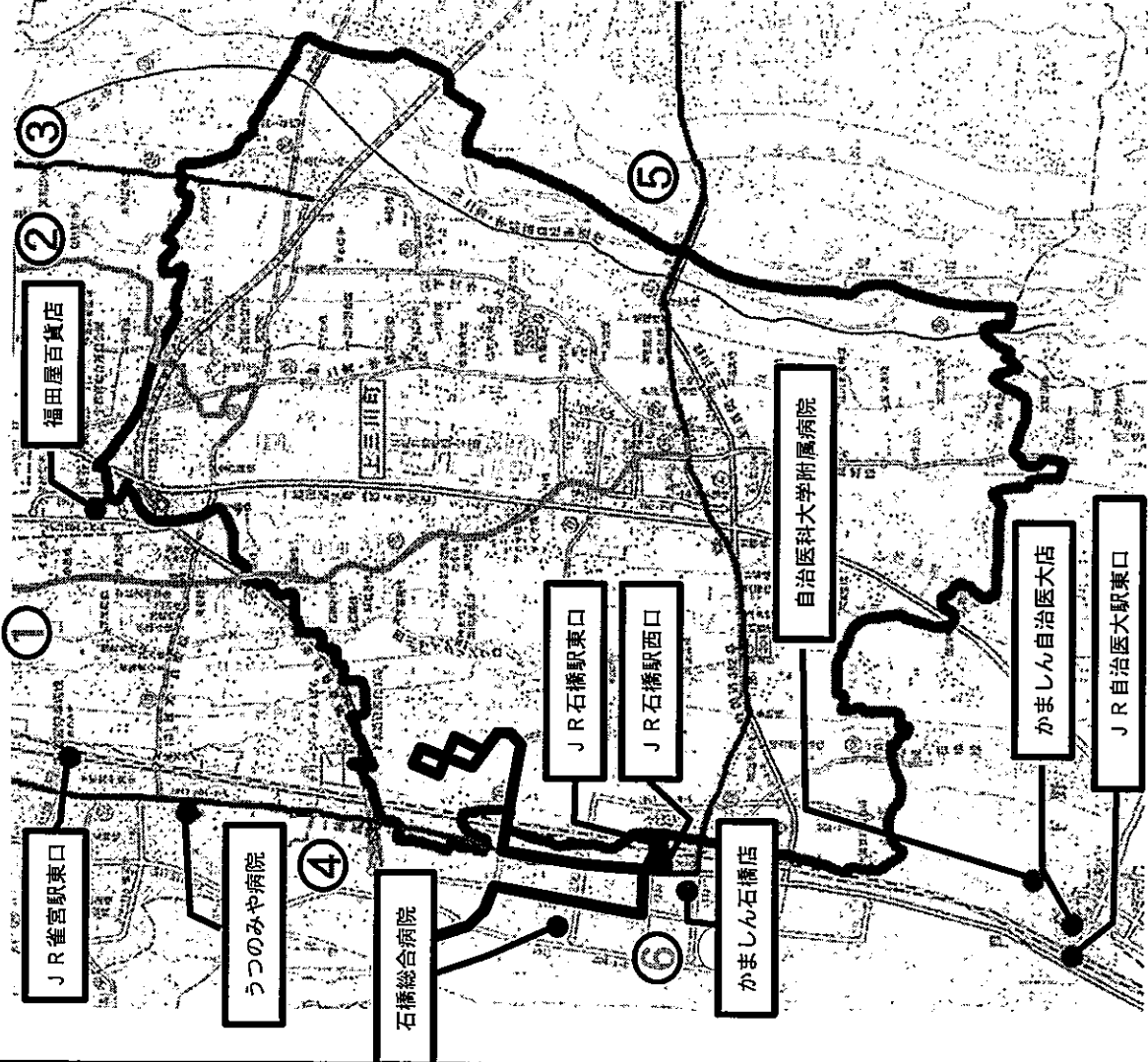
主な狙い

- 1 空き時間や空席の活用等による効率化によるお断り状況の改善
- 2 大まかな送迎時間の指定を可能にするこ
とで、バス及び鉄道との接続を強化する
- 3 電話予約に加えスマホ等IT端末での予約を可能にする
- 4 効率的な乗合いをつくる結果、一人当たり乗車時間の増が見込まれるが、デマンド水準のサービスレベルとして理解を広げ、タクシー業との望ましい差別化を図っていく

路線バスとの接続強化

最寄り鉄道駅である石橋駅東口を区間運行先としているが、バス停のある西口も乗降場所とすることで乗換えをしやすいとする。

上三川町デマンド交通運行区域



【凡例】

- 行政区域境（区域内を運行）
系統（国庫補助対象路線）
 - ① 関東自動車（駒生営業所～上三川車庫）
 - ② 関東自動車（駒生営業所～本郷台西汗）
- 系統
 - ③ 関東自動車（駒生営業所～東汗）
 - ④ 関東自動車（JR宇都宮駅～JR石橋駅）
 - ⑤ 関東自動車（JR石橋駅～真岡車庫）

区間運行場所（X9）

- うつのみや病院
- 石橋総合病院
- 自治医科大学付属病院
- 福田屋百貨店（FKDインターパーク店）
- スーパーマーケットかましん石橋店
- スーパーマーケットかましん自治医大店
- JR雀宮駅東口
- JR石橋駅東口
- JR石橋駅西口（令和3年度から）
- JR自治医大駅東口
- ⑥ 1市2町広域連携ゆうがおバス

【利用実績】

令和元年10月	1,407人	4月	759人
11月	1,246人	5月	736人
12月	1,345人	6月	1,079人
令和2年1月	1,198人	7月	1,115人
2月	1,087人	8月	976人
3月	1,060人	9月	1,082人
		合計	13,090人

協議事項3 公共交通の副読本に掲載する無料券について

1. 内容

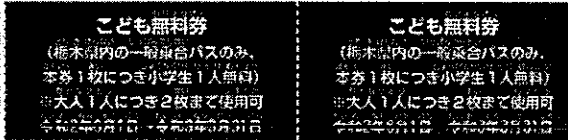
県が配布する公共交通の副読本に添付するバスの無料券について、令和3年度も2年度と同様にデマンド交通かみたん号及びゆうがおバスを対象とする。

2. 理由

当該副読本は、県内小学2年生を対象に配布され、子どもたちへの公共交通に関する啓発・教育を行うもので、バス無料乗車券の添付により、親子そろっての公共交通利用促進が図れる。デマンド交通かみたん号及び1市2町広域連携ゆうがおバスにおいても、無料乗車券の対象とすることで、町内においてもその効果が期待できるため。

参考：昨年度見本（有効期間は今年度のものです）

公共交通にのって出かけてみよう
この本を読んで、のってみたいと思ったバスはあったかな？みんなのまちにはどんなバスが走っているかな？おうちの人とのってみてね。



※使うときにこのページから切り離してね。

バスの子ども無料券
おうちの人と一緒にのるときにつかってね。

(利用できるバス路線)

●バス事業者の路線

関東自動車(ゆうがおバス含む)、ジェイアールバス関東、筑武バス日笠、日笠交通、しおや交通、定利中央観光バス

●市町による路線

[路線バス]

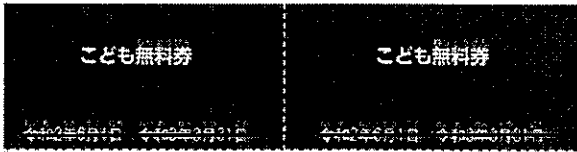
宇都宮市(上河内地域路線バス)、定利市(あしバスアッシー)、佐野市(さーのって号)、鹿沼市(リーバス)、日笠市(市営バス)、小山市(おーバス、広域公営バス渡良瀬ライン)、真岡市(いちごバス)、大田原市(市営バス)、矢板市(市営バス)、那須塩原市(ゆーバス)、那須烏山市(市営バス)、那須町(町営バス)、那須川町(コミュニティバス)、塩谷町(東武新高徳駅～J日矢板駅線)

[デマンドバス(デマンドタクシー)]

※利用には事前登録・予約が必要となる場合がありますので、各市町にお問合せください。

栃木市(益タク)、佐野市(さーのって号)、鹿沼市(予約バス)、日笠市(デマンドバス)、小山市(デマンドバス)、真岡市(いちごタクシー)、大田原市(らくらく号)、さくら市(うのはな号、コンタ号)、那須塩原市(ゆータク)、下野市(おてかけ号)、那須烏山市(デマンドタクシー)、上三川町(かみたん号)、益子町(ひまわり号)、市貝町(サシバふれあい号)、芳賀町(ひばり)、茂木町(めぐるくん)、壬生町(みがまる)、野木町(キラ輪号)、葛根沢町(たんたん号)、那須町(デマンド型乗合交通)、那須川町(なかちゃん号)

くわしい使い方はこのページに書いてあるよ。
大人の人に読んでもらってね。



(使い方)

- ・県内の一般乗り合いバス（高速バス・定期観光バスは除く）のみに有効とし、利用する距離の長さは自由です。
- ・1枚で1回限り利用できます。
- ・有効期間は、令和5年6月1日～令和6年5月31日です。
- ・無料券は、子どものみ有効とし、家族と一緒に使う場合に限って使用できます。
- ・無料券1枚につき子ども1人が無料になります。1回の乗車で使用できる無料券は、大人1人につき2枚までです。

●例：大人1人、小学生3人の家族で乗車する場合



無料券の対象

小学生のきょうだい
小学2年生

無料券は
1人1枚持ち

大人1人につき無料券を2枚まで使用できます

